

次の文章を読んで、後の問に答えよ。

ソ連の生化学者オパーリン博士が講演のため日本に来たので、一しきり新聞雑誌が博士上の「生命の起源」について書き立て、世人の注意をうながした。博士は講演の中で、人間の手による生命の創成、つまり無機物質の化学的変化によって原始的な生物質体をつくり出すことの可能性が、そう遠くない将来において証明されるであろうと述べた。これは非常に驚くべきことで、もしその通り事が行われたら、これは現代人類史の革命である。原子エネルギーの解放という大事件にもまさる大事件である。生命の起源の秘密こそ、あらゆる宗教の根柢であり、神の存在がその上に成り立っているから、この予言そのもので、宗教家はこれを神の旨と見なすであろう。この予言が実現したと、神はその立場を、宗教はその秩序を一変しなければならぬに違いない。人類史段階の文明においては、生命は神のみが与え得るものであり、神の存在を認めては生命を支配するものではない。生命という現象に摩訶不思議を感じ、神の思いをなし、ひいては生を生育する作用にただただ驚異の眼を向けていた。

すなわち芸術の起源はこの生命そのものへの驚異感に外ならず、神に代ってこれを人間の手でつくり出したという類型が、ついに「芸術」を生み出したのである。また事実、芸術は複製としての生命をつくり出した。人間の手で「生命」をつくり出したものは芸術以外にない。人類はわずかに芸術によって不可能な生命創造への希望を満足させることが出来たのである。

旧石器時代の洞窟にこの壁画をはじめ、一切の芸術は生命礼賛に基づき、神に代って生命を賦けようとする人間造形本能の悲願に成らないものはない。

- 問十四 本文の内容に合致するものを、次の中から二つ選べ。
1 ソクラテスは教養は進歩していくものであると主張した。
2 ソクラテスはソフィストの考え方を十分であると考えた。
3 ソクラテスは技術知こそ人間の真の教養であると捉えた。
4 ソフィストはソクラテスに理想の教師を見出した。
5 ソフィストは民主主義の基礎となる考え方を提唱した。
6 ソフィストはソクラテスの思想を野蠻に通じるとして危険視した。
問十五 「あひま・陽出・陽出」の読みをひらがなでせよ。
問十六 「せしむ・あひま・あひま」の読みをひらがなでせよ。
問十七 「生れしむ・あひま・あひま」の読みをひらがなでせよ。
問十八 「後天的・文化的要因」としてフロイトの神話の中で挙げられているものを四つしるせよ。
問十九 「野獣と神との間に近づけられた」とあるが、野獣と神とそれとの関係において、教養とはどのようなものであると筆者は述べているか。文中よりそのまま抜き出してしるせよ。(合二十文字)
問二十 「諸列の剣」とは、われわれの知性どのようなものであることを表しているか。文中の語句を用いて説明せよ。(六十文字以内)



- 問十四 本文の内容に合致するものを、次の中から二つ選べ。
1 ソクラテスは教養は進歩していくものであると主張した。
2 ソクラテスはソフィストの考え方を十分であると考えた。
3 ソクラテスは技術知こそ人間の真の教養であると捉えた。
4 ソフィストはソクラテスに理想の教師を見出した。
5 ソフィストは民主主義の基礎となる考え方を提唱した。
6 ソフィストはソクラテスの思想を野蠻に通じるとして危険視した。
問十五 「あひま・陽出・陽出」の読みをひらがなでせよ。
問十六 「せしむ・あひま・あひま」の読みをひらがなでせよ。
問十七 「生れしむ・あひま・あひま」の読みをひらがなでせよ。
問十八 「後天的・文化的要因」としてフロイトの神話の中で挙げられているものを四つしるせよ。
問十九 「野獣と神との間に近づけられた」とあるが、野獣と神とそれとの関係において、教養とはどのようなものであると筆者は述べているか。文中よりそのまま抜き出してしるせよ。(合二十文字)
問二十 「諸列の剣」とは、われわれの知性どのようなものであることを表しているか。文中の語句を用いて説明せよ。(六十文字以内)